

きゅうり防除基準(10a当たり)

防除時期	農薬の種類	農薬名	適用病害虫	希釈倍率	10a当たりの散布基準	使用方法	認証のための使用回数	農薬カウント数	
育苗時	殺菌剤	ダコニール1000	べと病、炭そ病、うどんこ病、灰色かび病、黒星病、褐斑病	1000倍		散布	1	1	
	殺虫剤	モスピラン水溶剤	コナジラミ類、ミカンキロアザミウマ、ウリノメイガ	2000倍	100～300L	散布	1	1	
			アブラムシ類、ミナキロアザミウマ	2000～4000倍					
		粘着くん液剤	アブラムシ類、ハダニ類	100倍	150～300L	散布	3	0	
定植時	殺菌剤	オリゼメート粒剤	斑点細菌病	5g/株	6～7.5kg	植穴土壌混和	1	1	
	殺虫剤	ベストガード粒剤	アブラムシ類、コナジラミ類、ミナキロアザミウマ	1～2g/株		植穴処理土壌混和	1	1	
生育時	殺菌剤	Zボルドー	べと病、斑点細菌病、軟腐病	500倍	100～300L	散布	4～6	0	
		ジマンダイセンフロアブル	べと病、褐斑病	500～800倍	150～300L	散布	2	2	
		アミスター20フロアブル	べと病、うどんこ病	1500～2000倍	100～300L	散布	2	2	
			灰色かび病、菌核病	1500倍					
			褐斑病、炭そ病	2000倍					
		ベルクート水和剤	褐斑病	2000倍	150～300L	散布	2	2	
	うどんこ病、灰色かび病、炭そ病		2000～4000倍						
	トップジンM水和剤	炭そ病、うどんこ病、菌核病、灰色かび病、黒星病、つる枯病	1500～2000倍	100～300L	散布	3	3		
	※病気の発生状況に応じて次の①～④のいずれかを選択								
	(使用回数以内で、状況に応じて散布)	殺菌剤	①ダコニール1000	べと病、炭そ病、うどんこ病、灰色かび病、黒星病、褐斑病	1000倍		散布	3	3
②			ダコニール1000	べと病、炭そ病、うどんこ病、灰色かび病、黒星病、褐斑病	1000倍	150～300L	散布	1	1
			ランマンフロアブル	べと病	1000～2000倍				
③			カンタスドライフロアブル	灰色かび病、菌核病	1000～1500倍	100～300L	散布	1	1
				褐斑病	1500倍				
④			ダコニール1000	べと病、炭そ病、うどんこ病、灰色かび病、黒星病、褐斑病	1000倍	100～300L	散布	1	1
			ランマンフロアブル	べと病	1000～2000倍				
殺虫剤			チェス顆粒水和剤	アブラムシ類、コナジラミ類	5000倍	100～300L	散布	2	2
			ダントツ水溶剤	アブラムシ類、コナジラミ類、ミナキロアザミウマ	2000～4000倍	100～300L	散布	3	3
			アドマイヤー顆粒水和剤	アブラムシ類、コナジラミ類、ミナキロアザミウマ	5000～10000倍	100～300L	散布	3	3
	アーデント水和剤 ※留(9)	アブラムシ類、オンツコナジラミ、ハダニ類、ミカンキロアザミウマ	1000倍	150～300L	散布	3	3		
	コテツフロアブル ※留(9)	ミカンキロアザミウマ、ミナキロアザミウマ、ハダニ類、ウリノメイガ	2000倍	100～300L	散布	2	2		
	スピノエース顆粒水和剤	ハモグリハエ類、アザミウマ類、ウリノメイガ	5000倍	100～300L	散布	2	0		
【特別散布】	殺菌剤	アミスター20フロアブル	べと病、うどんこ病	1500～2000倍	100～300L	散布	(1)	(1)	
			灰色かび病、菌核病	1500倍					
			褐斑病、炭そ病	2000倍					
上記の内、育苗時・定植時の薬剤、Zボルドーを除く薬剤は、収穫前日まで使用可能(収穫の24時間前までに使用する)。 Zボルドーは使用時期の指定なし。							合計	29	

留意事項

- 特別防除を除き、農薬カウント数を29で設定。Zボルドー、スピノエース顆粒水和剤は農薬カウントしない。
- 特別防除は、県より発生情報(警報、注意報、地区報に限る)が発表された場合に限る。
- Zボルドーは、生育前半の散布は避け、4回散布を基本とする(散布例参照)。斑点細菌病防除等やむを得ない場合のみ6回散布とする。
- 展着剤は、アピオンE、アプローチBI、ハイテンパワーを使用する。(野菜の殺菌剤・殺虫剤に登録のあるもの)
- 各薬剤とも使用回数、希釈倍率、散布量など使用方法を厳守し散布する。
- 生育時は、天候や病害虫の発生状況に合わせて、使用回数内でローテーション散布する(散布例参照)。
- ①～④の選択のめやすは、べと病発生時にダコニール1000に替えてランマンフロアブル、褐斑病発生時にダコニール1000に替えてカンタスドライフロアブルを散布する。
- 予防散布を基本とし、耕種的防除との組み合わせにより、農薬使用回数の削減に努める。
- 殺菌剤と殺虫剤の混用について
  - コテツフロアブルとボルドー液の混用については、必ずコテツフロアブルを先に調整後にボルドー液を混用する。
  - アーデント水和剤とカンタスドライフロアブルは薬害の問題があり、混用しない。